

オペラ

ぎふ県民文化祭事業

セロ弾きのゴーシュ

〈原作〉
宮澤賢治

〈台本・作曲〉
林 光

〈演出〉
加藤 直

多治見公演

2025

11/3 (月・祝)

15時半開場 16時開演

セラミックパークMINO

国際会議場

多治見市東町4-2-5

岐阜公演

2025

11/9 (日)

14時半開場 15時開演

ぎふ清流文化プラザ

長良川ホール

岐阜市学園町3-42

入場料 1,000円(税込) 全自由席

※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット取扱所

多治見公演

パロー文化ホール TEL.0572-23-2600

まなびパーク TEL.0572-23-7022

セラミックパークMINO TEL.0572-28-3200

岐阜公演

ぎふ清流文化プラザ サービスカウンター
TEL.058-233-8121

販売開始 〈両公演〉 9/1 (月) 10:00~

問い合わせ ✉ tajimichoirjapan@gmail.com

主催 / (公財) 岐阜県教育文化財団

共催 / 岐阜県、TAJIMI CHOIR JAPAN多治見少年少女合唱団とシニアコア

イラスト: フランスガム

演出 加藤直
指揮 柘植洋子
ピアノ 北住淳
ゴースト 森寿美
楽長 鬼頭和司
三毛猫 田村海遥
かつこう 前田ひより
仔狸 佐分利幸多
野ねずみ母 山本歩乃花・平藪京佳
ナレーションソロ TAJIMI CHOIR JAPAN
演出助手 後藤優子
衣装協力 仲田絵美
舞台照明 はぐるま エリシアン
写真撮影 宮上佳弘

2018年加藤直演出「鳥獣戯画」は、合唱を単なる音楽表現にとどめず、身体性や空間性を活かした「合唱劇」として昇華させ、多治見という土地の文化的厚みを、舞台芸術を通じて全国・世界へと発信する試みでもあった。この演奏会では、子どもたちの合唱と演劇的要素が融合した舞台が展開され、加藤直演出がその世界観を深めた。観客からは「魂の高さが感じられる演奏」「奇跡のような舞台」といった感動の声が寄せられた。子ども達はその感動を忘れていない。オペラ「セロ弾きのゴーシュ」再演にあたり、加藤直は「潔く壊して作り直す」ともらした。新生「セロ弾きのゴーシュ」、どのような舞台になるか楽しみでしょうがない。



加藤直 演出

1942年生まれの劇作家・演出家。黒テント創立に参加し、以後オペラ・演劇・ミュージカル・合唱劇など多彩な舞台を手がける。語りと身体表現を融合させた独自の演出で知られ、こんにゃく座や栗友会との作品も多数。市民参加型の創作や教育活動にも力を注ぎ、現在は、まつもと演劇工場工場長として地域と舞台芸術の架け橋を担う。TAJIMI CHOIR JAPAN「セロ弾きのゴーシュ」「かしわばやし」の演出を手掛けた。



北住淳 ピアノ

東京芸術大学卒業後、二度ハンガリー国立リスト音楽院留学。第1回マルサラ国際コンクール、第36回ヴィオッティ国際コンクールディプロム受賞。ピアノ三重奏団「トリオ・ミンストレル」ピアニストとして、木野雅之、小川剛一郎とともに全国主要都市でコンサート・ツアーを行う。昨年まで愛知県立芸術大学音楽学部教授。大阪大学、京都大学、神戸大学等でレクチャーコンサート出演、各地で講師、審査員等を務める。



森寿美 バリトン

大阪教育大学卒業。沖縄県立芸術大学大学院、ミュンヘン音楽大学大学院修了。第5回長久手国際声楽オペラコンクール第1位、第43回ドヴォルジャーク国際声楽コンクール第2位（チェコ）、第79・85回日本音楽コンクール声楽部門（歌曲）入選等。ソリストとして国内外のオーケストラと共演する他、オペラ、宗教曲、ドイツ歌曲など様々な分野で活動している。現在、愛知県立芸術大学准教授。名古屋芸術大学非常勤講師。



多治見青年会議所提唱で設立。東京混声合唱団桂冠指揮者、田中信昭を音楽監督に迎え日本の合唱界最前線での活動へと導かれるに至る。今までに国内外200回以上の公演を行った。小林研一郎指揮名古屋フィル、笙の宮田まゆみ等、優れた演奏家との共演も多い。今年は、6月大阪・関西万博公演、9月東海市芸術劇場「くるみ割り人形」出演、12月「二十億年前の石」リバイバル公演を行う。来年7月31日、愛知県芸術劇場コンサートホール、山下一史指揮愛知室内オーケストラ第100回記念演奏会「権代敦彦委嘱作品世界初演」出演が決まっている。団長 高橋宗彦、副団長 加藤誠、常任指揮者 柘植洋子、Artist in Residence大平健介、ピアノ 井上香織。